株式会社 耕電設　創立50周年記念 企画

人が育つ環境づくり

明日への明かりを耕し続け半世紀

株式会社 耕電設
代表取締役 千　葉　昌　子

千葉社長の
インタビュー動画

公共、民間施設での電気工事や省エネ関連事業などを手がける耕電設(室蘭市中島町)が、創立50周年の節目を迎えている。いち早く自然エネルギー関連に目を向けて営業活動を展開しているほか、拠点を道外にも拡大。地域貢献活動にも積極的だ。千葉昌子代表取締役に経営戦略や地域貢献などへの思いを聞いた。

社長就任からを振り返ると―

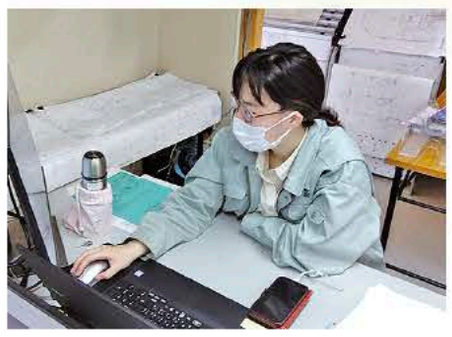
千葉社長▼会社が50年続けてこられたことは、地域の皆さまに支えられたからこそ。感謝しかありません。社長就任前は経理を担当しており、代替わりでは電気工事を知らないということで苦労しましたが、初めて現場外から就任したことで、従業員が最も戸惑ったのではないでしょうか。

経営面では数字を重要視することが多く、従業員にとっては面倒くさいと思われますが、従業員一人一人が社長意識を持って業務に臨んでほしいと取り組んできました。私がトップに立つというよりも、みんなで考えて、指示待ちではなく一人一人がしっかり考える組織づくりに重点を置いてきました。

「～だからできない」のではなく、「～だからこそできる」ことがあると感じてやってきました。

建設ディレクターを設けた狙いは―

千葉社長▼現場に行くことなく女性が活躍できる環境づくりが目的。現場ではどうしても代理人の業務が過多になります。現在は代理人が書類作成に追われて現場管理の労働時間増加につながっているのが現状です。働き方改革が問われている中で、残業を削減できるかが建設業の課題。解決の一助として、建設ディレクターの役割があります。書類作成などの業務の一部を建設ディレクターが担うことで、代理人の負担軽減ができます。

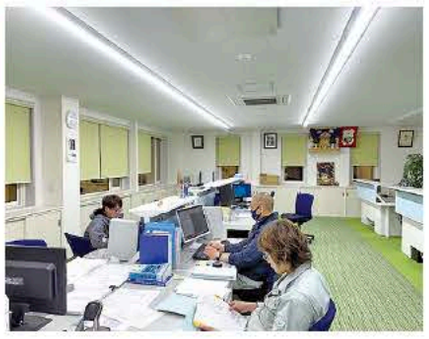


オンラインでの作業も可能で、建設ディレクター1人で複数の現場の作業を担当することも可能。建設ディレクターは国家資格ではありませんが、十分活躍できる仕事。一般的に補佐と聞くと、サポート的な意味合いになりますが、資格を取得することで、女性自身のモチベーション向上にもつながります。

女性が働きやすい職場のポイントは―

千葉社長▼最初に取り組んだことは、仕事をする上での環境整備。育休制度を利用し、復職した社員もいます。

最近では本社事務所を新築することで仕事の環境整備を行い、業務上のモチベーションアップにつなげています。あとは、事務所全体をフラットにすることで総務部、工務部、工事部の「つながり」を持てるように心がけています。



IT化への取り組み状況は―

千葉社長▼コロナ前から工事管理台帳をクラウド化しており、現場の状況を数字で見える化にしました。インターネット上でカレンダーを共有して書類を共有しているほか、会議もオンラインで開催してきました。今ではコロナ禍で一気に加速しました。

書類もペーパーレスに変わりつつあります。社員にアイパッドやスマートフォンを持たせており、以前と比べて柔軟性が高まり生産性も向上しています。

地域貢献活動については―

千葉社長▼電気工事業を担う会社として、以前は小中学校での蛍光管取り替えを行っていました。現在は保育所でのイルミネーション設置を行っています。

次世代の子どもたちが楽しい経験を通して、電気関係の仕事を知ってもらうことがうれしいです。他には、まちピカ活動やエコキャップ回収、少年野球大会への協賛も行っています。

最近では電気工事業で働く人材育成を目指して、第二種電気工事士の資格取得を目指した講習会を、初めて札幌市内で開きました。4月から講習事業として展開しており、本気で資格を目指す人が集まり、活気付きました。新卒の人はもちろん、すでに就職している人でも資格取得を頑張ることで、電気工事の業界に興味を持つきっかけになればいい。

SDGsにも積極的ですね―

千葉社長▼自社では太陽光パネルを設置して自家発電を用いているほか、二酸化炭素の削減量を可視化するシステム・ゼロボードを導入し、CO2の削減量を数値化しています。

SDGsは難しいイメージがありますが、身近なことから少しずつ取り組むことがベスト。

当社ではできることから始める エコ活動としてさまざまな取り組みに今後も挑戦し続けていきたい。

今後を見据え、どのような会社に―

千葉社長▼日ごろからの感謝を忘れないこと。感謝を伝えられる企業でありたい。会社を存続することは、雇用維持につながり、結果として大きく成長させることができます。私利私欲ではなく、社会に貢献できる会社でありたい。

会社が存続する意義を忘れることなく、社会と共存して地域とともに明るい未来へつながるよう成長していきます。

株式会社 耕電設 50年のあゆみ

1972年	6月	耕電設　創立
1974年	4月	株式会社耕電設　設立
1980年	4月	室蘭市指名業者登録
1982年	4月	北海道、北海道室蘭開発建設部指名業者登録
1987年	4月	株式会社耕電設札幌支店を豊平区月寒東に開設
2008年	4月	ISO9001:2000　本社認証取得
2009年	10月	株式会社耕電設札幌支店移転
2018年	2月	ISO9001:2015　本社認証取得 ISO9001:2015　札幌支店認証取得
2018年	4月	関東営業所開所
2019年	4月	本社新築
2020年	4月	ISO 14001:2015本社・支社取得 関東営業所を東京都港区新橋へ移転
〃	6月	札幌支店営業部を札幌市清田区北野に開設
2021年	6月	東北営業所開所
2022年	10月	建築工事業許可を新規に登録
2023年	4月	講習会事業参入

看板犬 タロ

現場のベストサポーター『建設ディレクター』

建設ディレクターとして勤務する鹿納ひなのさん(26)は、宿泊施設やドラッグストアの現場代理人と連携を図り書類作成のほか、資材発注や図面修正などを担ってきた。オンラインでもやりとりしながら、作業工程がスムーズに進むよう縁の下で支えた。

札幌出身。室蘭工業大学を卒業後、入社した。「会社の雰囲気が明るくていい」と門をたたいた。事務職志望だったが、「現場を知ってもらいたい」とオファーがあり、昨年春、建設ディレクターの資格を取得した。

4月下旬に洞爺湖畔にオープンしたリゾートホテルの工事にも携わった。現場代理人・中居靖宜さん(41)と連携しながら、発注作業などを担った。昨年夏から今年春先にかけて、7カ月ほど現場に詰めた。照明器具は2000を超える数量で、鹿納さんは「現場の作業がスムーズに行われるよう、ミスは許されない。在庫切れや図面変更などの確認で漏れがないように心がけました」と振り返る。

ホテルの現場と並行して、東北エリアに新設するドラッグストアの書類作成なども担当した。中居さんも「現場代理人は管理業務が大変。建設ディレクターの鹿納さんに助けられた部分が大きい」と感謝していた。

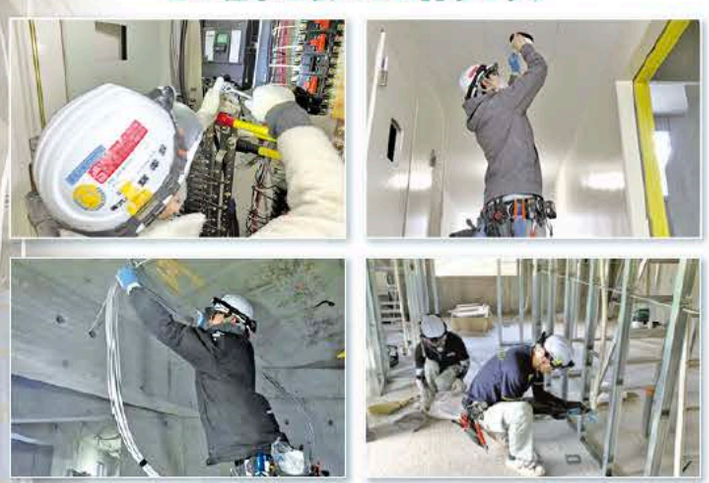
現場代理人
中　居　靖　宜さん

建設ディレクター
鹿　納（かのう）　ひなのさん

企画・取材/室蘭民報社 編集局・報道部 石川昌希　制作/室蘭民報社 制作グループ

耕し続けます。明日(未来)のあかり

地域の皆様の暮らしに合わせた電気設備をご提案できる
この仕事は私たちの誇りです。



明るい環境づくり ～地域貢献活動～

イルミネーション設置

15年以上続けているイルミネーション設置ボランティアを3年ぶりに再開しました。

地域清掃活動

草刈りやゴミ収集を行う室蘭市のまちづくり運動に参加しています。

第二種電気工事士学科試験対策講座を開講

弊社では電気技術の資格取得に向けた講座を提供する日本エネルギー管理センターと事業提携を行い、第二種電気工事士学科試験対策講座を開講しました。

2023年4月22日(土)・23日(日)札幌会場で行われた第二種電気工事士学科試験対策講座

次回予告
第二種電気工事士実技試験対策講座
6月17日(土)・18日(日)
札幌コンベンションセンター

事業内容
●電気工事業 ●通信設備工事 ●防災設備工事の設計、施工、省エネ工事 ●LED照明設備工事他

株式会社 耕電設
本　社:〒050-0074　室蘭市中島町4丁目17番33号
TEL.(0143)43-2332　FAX.(0143)43-7180

札幌支店:〒062-0055 札幌市豊平区月寒東5条18丁目11-8
関東営業所:〒105-0021 東京都港区東新橋2丁目2-10 村松・共栄火災ビル7階
東北営業所:〒981-1217 宮城県名取市美田園1-3-10-104